

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実践報告書

1 学校名：熊本市立託麻東小学校

2 実施日時：2019（平成31）年1月25日（金）9：30～11：30

3 対象：全校児童 約1000名

4 派遣パラリンピアン：鈴木 徹 さん

（陸上競技 走高跳 シドニー大会6位、アテネ大会6位、北京大会5位、
ロンドン大会4位、リオデジャネイロ大会4位）

5 授業内容：講演・実技体験

2019（平成31）年1月25日（金）に、熊本市立託麻東小学校にて、陸上競技のパラリンピアンである鈴木徹さんの講演と実技体験が行われました。

鈴木さんをお迎えするにあたり、託麻東小学校では、事前学習として、学級活動や総合的な学習の時間を使って、オリンピック・パラリンピックの起源や理念について各クラスで学び、2020年の東京大会ではどのような種目が増えたのか、また、どのようなことを見てみたいか、などの調べ学習を行ったそうです。

鈴木さんは、もともとはハンドボールのプレーヤーで、大学はハンドボールの強豪校へ進学することが決まっていたのですが、18歳のときに車の運転中、事故を起こしてしまい、右の下肢の一部を失ってしまいました。リハビリ中に義足を使って歩行しましたが、始めは松葉杖をついていても脚が痛くて仕方なく、数メートル歩くだけでもやっとの状態でした。交通事故から1年ほど経ち、ようやく義足をつけて走れるようになりましたが、その当時100mを走るのに20秒かかったそうです。事故直後は、大好きなハンドボールもできなくなってしまい、ショックな気持ちもありましたが、鈴木さんは塞ぎ込むことはせず、すぐに、次はどのスポーツをしようかと考え、新たな目標に向かって前に歩み出したそうです。他方で、鈴木さんは、幼いころから心臓病や吃音症を抱えており、そのせいで、スポーツを制限されたり、発音をからかわれるなど、辛い経験をしたこともあったそうです。しかし、スポーツで活躍すると、周囲から称賛の声が上がり、それが嬉しくて次第にスポーツに夢中になっていったそうです。辛いことがあっても、スポーツが自分を助けてくれたと話して下さいました。そのような経緯があり、右脚を失っても、スポーツをすることは諦めず、小学校のときに少し経験のあった走り高跳びを始めてみたそうです。

鈴木さんからは、今夢中になれることがある人も、そうでない人も、人生いつ何が起きるか分からないので、ひとつのことだけでなく、いろいろな経験をし、楽しいと思えることを増やして行ってほしいと話していただきました。また、鈴木さんは過去の大会で様々なメダルなども獲得されてきましたが、メダルをとった人にしか分からない喜びもたくさんあるため、たくさん努力を積み重ねて、メダルのような「ご褒美」を多く経験してほしいと、子どもたちにメッセージを送っていただきました。

講演のあとは、6年生の代表児童4名や代表教員2名と共に、走り高跳びの実技を披露していただきました。はじめは100cmの高さからスタートし、児童らも順調にクリアしていきましたが、110cm、120cm…と徐々に

バーの高さが上がっていくと、惜しくも越えることができず、悔しそうな顔を見せる児童もいました。しかし、鈴木さんはバーの高さが上がっても軽々と越えていく華麗な跳躍を披露され、その度に子どもたちから驚きと興奮の歓声が上がりました。

最後に、代表児童から、鈴木さんへお礼の言葉が贈られました。児童の感想には、パラリンピックは遠い世界の話だと思っていたが、今日の実践で身近なものに感じることができたこと、挫折を乗り越えることの大切さや、仲間の存在の大切さを学んだことなどがありました。2020 東京大会でも、鈴木さんの活躍を期待していますと、児童から鈴木さんへ応援のメッセージも贈られました。

6 実践の様子



【 講演の様子 】



【 義足の仕組みを説明する鈴木さん 】



【 代表児童との体験の様子 】



【 鈴木さんの実演の様子 】



【 鈴木さんの自己ベストの高さに驚く児童ら 】



【 代表児童からのお礼の言葉 】